

## 平成29年度東アジアプロジェクト研究報告

### ○プロジェクト名

東アジアにおける文化伝承の研究

### ○研究組織

研究代表者：馬彪・高橋征仁

研究分担者：富平美波・更科慎一・根ヶ山徹・森野正弘・谷部真吾・小林宏至

研究協力者：なし

### ○研究の概要と結果

このプロジェクトには、言語文学・社会学・歴史学という三分野の研究者が参加しており、主に、平安文学の伝承と象徴性、版本・曲譜の校合、明代官話音、明清時代の音韻観、避難生活、祭礼と儀礼、宗教と社会などの課題に以下の研究を行った。

1. 平安期に成立した『竹取物語』や『源氏物語』の叙述の伝承性、及び象徴性について考察を展開した。その成果の一部は研究論文として公表した（森野）。
2. 本年度は明清兩代に上梓された『牡丹亭還魂記』改訂本のうち、『還魂記定本』における先行版本の受容について明らかにした（根ヶ山）。
3. 京都大学文学部図書室・人文科学研究所図書室、大阪市武田科学振興財団杏雨書屋にて、『華夷訳語』の諸本を調査した。（更科）
4. 『続通志』「七音略」の「門法解」を解釈するための前段階の作業として、『直指玉鑰匙門法』等の門法文献に現れる反切例を調査した。また、『続通志』「七音略」に先立つ門法文献である明代の『字学元元』について、『四庫全書存目叢書』本では欠けている序文等を、京都大学人文科学研究所が所蔵する本で調査した。（富平）
5. 宮城県の避難生活者の健康調査を用いて、基本属性のほか、避難の経緯や支援ネットワークが再適応に大きく影響していることを明らかにした。研究成果の一部は海外学術雑誌に投稿中（高橋）。
6. 森の祭りに関する調査はいまだ継続中であるが、現在までのところ、上述したような高度経済成長期における文化的・社会的状況の変化が、当該祭礼の行事構成の変容などに影響をおよぼしたことがわかった。また、同じような時期に、似たような変化が日本各地の祭礼・儀礼で生じていたことを、文献調査からも確認することができた。（谷部）
7. 2017年6月「宗教と社会」学会へ参加し現代中国の宗教事情について討議、2017年9月宗教情報リサーチセンターを訪問し中国社会における日本宗教団体に関するデータを収集した。研究成果は次年度国際宗教研究所の成果報告として出版される予定。（小林）
8. 前漢～新王莽期における制度改革についての研究資料を調べ、改革の背景と効果などを検討した（馬彪）。

経費は、現場の調査や資料収集、書籍の購入に使った。成果としては、一部はすでに研究雑誌や著書で公表したが、まだ整理中や公表予定となっているものもある。

### ○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

- ・森野正弘「オルタナティブな時間と物語を拓く夢—小野小町、道綱母、明石の入道の夢解釈」『時間学の構築Ⅱ 物語と時間』、恒星社厚生閣、pp.93-117、2017年6月。
- ・根ヶ山徹「半園刪訂『還魂記定本』における『牡丹亭還魂記』の改編」（『学芸国語国文学』第50巻、東京学芸大学、pp.114-124、2018年3月）。
- ・更科慎一「論四夷館『華夷訳語』音訳漢字漢語音系」『南開語言学刊』2018年第1期に掲載予定（印刷中）。
- ・馬彪「章學誠的史學」（清）章學誠『内藤文庫蔵鈔本章氏遺書』第一巻、國立臺灣大學人文社會高等研究院、東亜儒學研究中心出版2017年10月pp.25-33。
- ・馬彪「光武の新莽に「因りて改めず」についての研究」『山口大学文学会志』第68巻2018年3月pp.1-30。
- ・馬彪「漢元帝以降前漢の「是古非今を好む」改革について」『異文化研究』2018年3月第12号pp.26-46。

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

- ・森野正弘「平安文学が描く夢の位相と諸相」、第1回常熟理工学院中日日本語・日本文学国際シンポジウム—異空間を繋ぐ言語学と文学—、中国江蘇省常熟市（常熟理工学院外国語学院）、2017年9月16日。
- ・森野正弘「『竹取物語』における時間の進行」、嘉興学院中日学術会議、中国浙江省嘉興市（嘉興学院外国語学院）、2017年11月16日。
- ・更科慎一「『華夷訳語』における外国語音の漢字音訳法」、嘉興学院中日学術会議、中国浙江省嘉興市（嘉興学院外国語学院）、2017年11月16日。
- ・更科慎一「論四夷館『華夷訳語』音訳漢字漢語音系」、「近代官話研究の新視野」国際学術シンポジウム、中国南開大学、2017年9月3日。

(3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

- ・馬彪『經典之門：新視野中華經典導讀歷史地理篇』（共著）中華書局2017年5月。
- ・馬彪『中国史学史』（単訳著）上海古籍出版社2017年11月。

---

### ○プロジェクト名

アジアの教育と文化におけるグローバル化

### ○研究組織

研究代表者：葛・石井

研究分担者：有元・鷹岡・松岡・村上・森下・吉村・北沢・田中(理)・熊井・山本(冨)・中田

### ○研究の概要と結果

グローバル化の多面的な現象の中で、国境を越えて共有される教育学に関連する科学の普遍的

な原理面にやや重心を移した研究がおこなわれた。文学の分野では、万葉集の教材としての研究と授業実践の研究が行われた。歴史と言語の分野では日本独自の社会や言語の在り方を明らかにする研究がすすめられた一方、新しい単語の形成という言語における普遍的な原理の追求も行われた。日本語教育では、大学における複言語主義、比較教育では多民族多言語社会であるシンガポールと台湾に焦点を当てた研究を行った。情報科学の分野では、東洋の伝統的な医学を情報科学の普遍的な理論をととして分析した研究が試みられ、同様に生物学においても理科教育への応用を意識しつつ、自然科学の視点から日本の独自の環境に生存する生物の研究を進めた。現在世界に共通する流れとなっている教育における主体的な学習のあり方やコミュニティーと学校教育の関係については、特別支援教育、情報教育、教育社会学、教育方法学の分野から研究を進めた。

以上の研究をふまえ、平成30年12月に社会システム分析講座が担当する教育分野の国際学術フォーラムのテーマを、「成長するアジアにおける教育と文化交流」とし、歴史、言語、自然科学の各分野の発表者を中国、台湾、韓国、タイから招聘することとした。

## ○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

- ・黒崎貴史・有元光彦「熟議空間における廃語プロセス」、『研究論叢（山口大学教育学部）』第67巻, 2018,1, pp.253-260.
- ・Ge, Q.W. et al. “A Petri Net Model of Internal Organs Including Triple Energizer” Canadian International Journal of Science and Technology, Volume 10, 2018, pp. 97-111.
- ・グエン ティ トゥイ, 高橋柚有, 呉鞠, 中田充, 葛崎偉「汎用性を考慮した人体経絡のベトリネットモデルの構築およびシミュレーションデータの集計」『電子情報通信学会技術研究報告』117(380), 2018, pp.77-82.
- ・石井由理「台湾の音楽教科書に見られるナショナル・アイデンティティーと文化的多様性」『山口大学教育学部研究論叢』第67巻, 2018, 1, pp.53-60.
- ・石井由理「音楽教科書から見たシンガポールの国民文化形成」『山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要』第45号, 2018, 3, pp.129-139.
- ・石井由理・セネック アンドリユー「英国ダラム大学日本語および経営学コースの事例をとおして見た外国語学習におけるGPとSP」『山口大学教育学部研究論叢』第67巻, 2018,1, pp.61-68.
- ・Kitazawa,C., Nakano, M., Yamaguchi, T., Miyahara, C. and Yamanaka, A. “Specification of larval axes of partial embryos in the temnopleurid *Temnopleurus toreumaticus* and the stronglyloccentroid *Hemicentrotus pulcherrimus*” Journal of Experimental Zoology Part B: Molecular and Developmental Evolution, 328 (6): 2017, 7, pp.533-545. doi: 10.1002/jez.b.22751.
- ・北沢千里「とれうまていくす」『青燈』14: 2017,11, pp.81-83.
- ・Yamamoto, H., Hiraki, K., Takemoto, H., Kojima, W., Kitazawa, C., Hori, M. and Yamanaka, A. “Unique egg-laying behavior of the butterfly” *Arhopala japonica* (Lepidoptera: Lycaenidae) in captivity CHUGOKU KONTYU, No. 31, 2018,1, pp.19-28.
- ・梶原豪人、熊井将太「多様な学びに残された課題—フリースクール・教育支援センター（適応指導教室）・夜間中学校の分析から—」『山口大学教育学部 研究論叢 第3部』第67巻, 2018,

pp.19-28.

- ・杉田浩崇、熊井将太「『エビデンスに基づく教育』に対する教師の応答のあり方」中国四国教育学会編『教育学研究紀要』（CD-ROM版）第63巻, 2018, pp. 336-347.
- ・長谷川真季・松岡勝彦 「長期研修派遣教員による在籍校への行動コンサルテーション実践—通常の学級に在籍する特別な教育ニーズのある児童と担任及び支援員への教育的支援—」『山口大学教育学部研究論叢』第67巻, 2018, 1, pp.141-146.
- ・MORISHITA, Toru “Le Japon premoderne :une societe de statuts.Reflexions sur quatre decennies de debats”, Histoire et Economie Societe, 2017, 6, pp.4-29.
- ・森下 徹「近世大坂研究の軌跡と展開」『都市史研究』4, 2017, 11, pp.84-90.
- ・森下 徹「『山口県史』の編纂に携わって」『日本歴史』836、2018, 1, pp.67-73.
- ・阿濱志保里, 阿濱茂樹, 中田充「情報安全に対する保護者の意識に関する研究—一定性的な分析にもとづいて」Computer & Education vol.043, pp.55-60, 2017, 12.
- ・田中香貴, 後藤隆文, 中田充, Sa-ngiamsak Chiranut, 葛崎偉「グラフの決定セットの判定法に関する検証」『電子情報通信学会技術研究報告』117 (380), 2018, pp.25-30.
- ・WU Biao, BAO Xiaolan, ZHANG Na, NAKATA Mitsuru, GE Qi-Wei “A Proposal of Generating Paths of Program Net and Its Application to Software Testing”『電子情報通信学会技術研究報告』117 (380), 2018, pp.65-70.
- ・甘泉, グエン・ティ・トゥイ, 呉鞠, 中田充, 葛崎偉「五臓六腑と十二正経のペトリネットモデル」JOURNAL OF EAST ASIAN IDENTITIES 3 2018, 3, pp. 79-88.
- ・甘泉, 高橋柚有, 呉鞠, 中田充, 葛崎偉「東洋医学に基づく五臓六腑および十二正経のペトリネットモデルの構築」『電子情報通信学会技術研究報告』, 117 (380), 2018, pp.71-76.
- ・柴田勝, 中田充, 阿濱茂樹, 五島淑子「遠隔システムを活用した協調学習の実践：植生の違いを学ぶ授業実践を通じて」『山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要』(44) 2017, 9, pp. 225-233
- ・Takafumi Goto, Mitsuru Nakata, and Qi-Wei Ge, “A Proposal to Judge Determiner Set of Graph Proceedings of ITC-CSCC” (International Technical Conference on Circuits/ Systems, Computers and Communications) 2017, 7, pp. 235-238.
- ・Hiroaki Kodama, Mitsuru Nakata, Qi-Wei Ge, and Makoto Yoshimura, “Improvement of Generation Method of Feature Graph Representing Japanese Handwritten Character String Proceedings of ITC-CSCC” (International Technical Conference on Circuits/Systems, Computers and Communications) , 2017, 7, pp. 243-246.
- ・鷹岡亮, 奈良崎雄郁, 嶋本雅宏, 横山誠, 加藤直樹「学びのストーリーノート」を活用した省察活動の実践と評価」『日本情報科教育学会学会誌』10 (1), 2017, pp.71-79.
- ・吉村 誠「古典教材としての『万葉集]—古代と現代の言葉の読み—」『山口国語教育研究』第27号, 2017,8, pp. 66-74.
- ・吉村誠・瀬戸口悠「教育と研究が連動する万葉集教材—授業実践を通して—」『山口大学教育学部附属教育実践総合センター研究紀要』第44号, 2017,9, pp.21-30.
- ・山本冴里「山口大学国際総合学部『言語学習の理論と実践Ⅰ』の背景と構成—『価値として、

- また能力としての複言語主義』促進を念頭に」『複言語・多言語教育研究』5, 2017, pp.88-100.
- ・山本冴里「多様な言語教育活動のあいだに『協調と効果的な連携』をつくる仕組み—欧州現代語センタ（ECML）での聞き取りから」『言語政策』14, 2018, pp.81-86.
- (2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）
- ・平床尚貴，山中明，北沢千里「サンショウウニ科2種の幼生が持つ左右極性の調節能について」2017年度生物系三学会中国四国支部大会高知大会（高知大学）2017年5月13日（ポスター発表（一般））.
  - ・江島凌，勇村悠介，浜辺真帆，富田雅隆，山本響，落合正則，北沢千里「スジグロチョウの蛹体色について」2017年度生物系三学会中国四国支部大会高知大会（高知大学）2017年5月13日（ポスター発表（一般））.
  - ・清永晋平，平野翔吾，北沢千里，山中明「ジャコウアゲハにおける春型および夏型成虫での翅の鱗粉構造の比較」2017年度生物系三学会中国四国支部大会高知大会（高知大学）2017年5月13日（ポスター発表（一般））.
  - ・富田雅隆，小島渉，北沢千里，山中明「アカタテハの蛹体色発現に関わる環境要因の解析」中四国動物生理シンポジウム・日本動物学会九州支部地区大会合同シンポジウム（下関火の山ユースホテル海峡の風）2017年9月2日（口頭発表（一般））.
  - ・竹元寛徳，江島凌，北沢千里，山中明「スジグロチョウにおける休眠蛹の体色に関する解析」中四国動物生理シンポジウム・日本動物学会九州支部地区大会合同シンポジウム（下関火の山ユースホテル海峡の風）2017年9月2日（口頭発表（一般））.
  - ・北沢千里，森本悠哉，小松美英子，山中明「イトマキヒトデ科2種における幼生発生と再生との関係」日本動物学会第88回富山大会（富山県民会館）2017年9月23日（ポスター発表（一般））.
  - ・酒井勇輝，河崎秀平，北沢千里，落合正則，山中明「ジャコウアゲハにおける短日および長日休眠蛹のホルモン応答性の比較」日本動物学会第88回富山大会（富山県民会館）2017年9月23日（ポスター発表（一般））.
  - ・平木佳奈，西村順子，鮎川恵理，北沢千里，山本響，小島渉，山中明「ベニシジミ幼虫の体色発現に地理的差異はあるのか？」西日本応用動物昆虫研究会・日本昆虫学会中国支部 平成29年度合同例会（神戸大学）2017年10月13日（口頭発表（一般））.
  - ・藤田貴志，森本悠哉，山中明，北沢千里「イトマキヒトデのブラキオラリア幼生後期における再生と消化管との関係」第14回棘皮動物研究集会山口大会（山口大学）2017年12月2日（ポスター発表（一般））.
  - ・赤星冴，山中明，北沢千里「スケルトン型ユニモデルを用いて動物の体のつくりを学習した小学校3年生のその後」第14回棘皮動物研究集会山口大会（山口大学）2017年12月2日（ポスター発表（一般））.
  - ・藤野遼也，原田誠大，竹元寛徳，清永晋平，富田雅隆，山本響，北沢千里，小島渉，山中明「ツマグロヒョウモンの人工飼料とその性能」日本農芸化学会中四国支部第50回記念講演会（例会）（広島大学）2018年1月27日（口頭発表（一般））.
  - ・山本響，平木佳奈，小島渉，北沢千里，山中明「ムラサキシジミの新奇な産卵行動について」第62回日本応用動物昆虫学会（鹿児島大学）2018年3月26日（ポスター発表（一般））.

- ・杉田浩崇・熊井将太「『エビデンスに基づく教育』に対する教師の応答のあり方」中国四国教育学会第69回大会（広島女学院大学）2017年11月25日.
  - ・松岡勝彦・須藤邦彦「長期研修派遣教員による在籍校への行動コンサルテーションのあり方(1)」日本特殊教育学会 第52回大会（名古屋国際会議場）2017年9月23日.
  - ・須藤邦彦・松岡勝彦「長期研修派遣教員による在籍校への行動コンサルテーションのあり方(2)」日本特殊教育学会 第52回大会（名古屋国際会議場）2017年9月23日.
  - ・岸根瑞希・松岡勝彦「自閉スペクトラム症児童の外出時におけるトイレ滞在時間短縮の試み」日本自閉症スペクトラム学会 第16回大会（福岡国際会議場）2017年9月3日.
  - ・植田隆博・松岡勝彦「自閉スペクトラム症の成人における業務遂行中に不適切発言をする行動の改善」日本自閉症スペクトラム学会 第16回大会（福岡国際会議場）2017年9月2日.
  - ・田中香貴, 後藤隆文, 中田充, Sa-ngiamsak Chiranut, 葛崎偉「グラフの決定セットの判定法に関する検証」電子情報通信学会技術研究報告, システム数理と応用研究会 (MSS) (広島市立大学サテライトキャンパス) 2018年1月18日.
  - ・WU Biao, BAO Xiaoan, ZHANG Na, NAKATA Mitsuru, GE Qi-Wei “A Proposal of Generating Paths of Program Net and Its Application to Software Testing”
  - ・電子情報通信学会技術研究報告, システム数理と応用研究会 (MSS) (広島市立大学サテライトキャンパス) 2018年1月18日.
  - ・甘泉, 高橋柚有, 呉韜, 中田充, 葛崎偉「東洋医学に基づく五臓六腑および十二正経のペトリネットモデルの構築」電子情報通信学会技術研究報告, システム数理と応用研究会 (MSS) (広島市立大学サテライトキャンパス) 2018年1月18日
  - ・グエン ティ トゥイ, 高橋柚有, 呉韜, 中田充, 葛崎偉「汎用性を考慮した人体経絡のペトリネットモデルの構築およびシミュレーションデータの集計」電子情報通信学会技術研究報告 システム数理と応用研究会 (MSS) (広島市立大学サテライトキャンパス) 2018年1月18日.
  - ・横山誠, 鷹岡亮「遠隔合同授業における学習者の思考を深めるためのデジタル道具箱の開発」電子情報通信学会技術研究報告,(広島大学附属福山高校・広島) 2017年9月9日.
  - ・鷹岡亮, 横山誠, 奈良崎雄都, 加藤直樹, 佐々木司「動画へのコメント付与が可能な省察ノートツールの設計と開発」日本情報科教育学会第10回全国大会, (大阪芸術大学・大阪) 2017年7月2日.
  - ・山本冴里「はじめて学ぶ、学びたい言語の学習に、自律的に取り組むクラスー山口大学国際総合科学部「言語学習の理論と実践Ⅱ」,日本外国語教育推進機構 (JACTFL) 第6回シンポジウム「外国語教育の未来を拓く—豊かな人間性を育む多言語・複言語教育」,(東京) 2018年3月.
- (3) 出版物 (著者名、書名、出版物名、年月日、ページ)
- ・有元光彦 (編著) 『山口県のことば (日本のことばシリーズ35)』 明治書院, 2017.5.
  - ・熊井将太『学級の教授学説史—近代における学級教授の成立と展開』 溪水社, 2017.
  - ・松岡勝彦「応用行動分析学と上手なほめ方」『アクティブラーニングで学ぶ特別支援教育』 藤田久美編著. pp.6-11, 2017.
  - ・田中理絵 (編著) 『現代の家庭教育』 放送大学教育振興会, 2018.
  - ・田中理絵「学校教育とコミュニティ形成」『コミュニティ辞典』 春風社, pp.62-63, 2017.
  - ・田中理絵「子どもの虐待」『教育社会学事典』 丸善出版, pp.588-589, 2018.

- ・山本冴里「『せんせい、ちょっと待っておれ!』——マンガ・アニメに牽引された日本語学習」山田奨治（編著）『マンガ・アニメで論文・レポートを書く：「好き」を学問にする方法』ミネルヴァ書房, 2017, 4, pp.263-265.
- ・山本冴里「『私の来た道』から、他者とともに生きることへ」細川英雄・太田裕子（編著）『キャリアデザインのための自己表現：過去・現在・未来を結ぶバイオグラフィ』東京図書, 2017, 9, pp.199-213.

#### [その他]

- ・有元光彦『九州方言におけるテ形音韻現象の記述的研究』平成26～29年度科学研究費・基盤研究（C）「九州方言音韻現象の方言崩壊ヒストリーに基づく方言形成シナリオの構築」（No.26370540）・研究成果報告書, 2018, 3, pp.1-131.
- ・北沢千里『コシダカウニの受精と発生』DVDビデオ Documental Channel(監修) 2017, 9.
- ・松岡勝彦『LD・ADHD等関連用語集』（第4版：編集協力者）. 日本LD学会, 2017.
- ・山本冴里「山口大学国際総合科学部『言語学習の理論と実践Ⅰ』の背景と構成—「価値として、また能力としての複言語主義」促進を念頭に」『複言語・多言語教育研究』日本外国語教育推進機構No.5, , 2018, pp.88-99（報告）.

### ○プロジェクト名

東アジアにおける社会、経済と企業経営

### ○研究組織

研究代表者：城下賢吾 李海鋒

研究分担者：中田範夫 立山紘毅 内田恭彦 有村貞則 豊嘉哲 山本周吾 瀧川和彦

研究協力者：

### ○研究の概要と結果

これまで継続している研究プロジェクトでは社会、経済、企業経営、法律の視点から、病院経営、ファイナンス、消費と広告、マスメディア、事業戦略、ダイバーシティ、国際経済、国際金融、経済法について研究を行っている。中田は都道府県立病院と市町村立病院において8つの要因と財務・非財務業績指標との関係を規模別に明らかにしている。更に財務業績と非財務業績間の相関関係についても分析している。城下は退職後の資金計画について様々なシミュレーション分析を行った。李は高度経済成長とともにIT化とグローバル化が急速に進展する中で、これまでにない中国の特徴的な消費社会について、都市・農村における実態調査に基づく分析により、解明している。立山は最高裁大法廷がNHK受信料を合憲とする判決を出したことから、政治サイドから突然「改革」声明が出されたことから、現状改めて研究枠組そのものを検討している。内田は地方の企業が域外に進出の成否に対して、その企業の関係資産（例えば域外の代理店や小売業など）の特徴がいかなる影響を与えるのかということについて、資源依存関係パースペクティブから実証的に明らかにした。

有村は障害差別解消法によって医療機関における障害のある患者への配慮や支援がどのように変化したかを調べるために2つの医療機関を対象とする事例調査を行った。豊は移民労働なしには成立しなくなっているEUの一部の農業および農村に対して、2014年にEUで成立した季節労働者指令がどのような影響を与えるかを分析した。山本は米英などのグローバル銀行の域外の貸し出しによるネットワーク増幅によって、グローバルな銀行の貸し出しが大幅に増幅することを実証分析により明らかにした。溯川は取引先事業者間の垂直的な合意を通じて、競争事業者間で価格協定などの水平的な合意を形成した場合、独禁法上厳しく罰せられる。他方、水平的な合意が見受けられない場合、誰に対して独禁法違反の該当性を判断すべきかについては課題が残っていることを明らかにした。

### ○研究成果の一覧

(1) 学会誌等（発表者名、テーマ名、学会誌名、巻号、年月日、ページ）

1. 中田範夫「公立病院における組織形態・内部環境・マネジメント手法と財務業績・非財務業績との関連性:規模に基づく分析」、中田範夫・城下賢吾責任編集『東アジアの医療福祉制度:持続可能性を探る』、中央経済社、88-100ページ、2018年3月。
2. 孙凤・王沙・李海峰「中国農民工の消費選択行動に関する研究」『山口経済学雑誌』第66巻第1・2号（2017年7月）P59-78。
3. 孙凤・李海峰「産業構造の変化と消費社会の相関分析」『東亜経済研究』第76巻第1・2号、2017年12月。
4. 白金龍・李海峰「中国におけるインターネットの普及と消費者行動の変化」『東亜経済研究』第76巻第1・2号、2017年12月。
5. 立山紘毅「裁判例検討・GPS捜査の違法性とプライバシー侵害～最大裁2017年3月15日・刑集71巻3号13頁を機縁として～ 山口経済学雑誌 66巻第5号 75-102,平成30年3月。
6. 内田恭彦（2017）「地域企業の域外進出と関係資産」『日本知的資産経営学会誌』第3号 pp.7-21.
7. SHUGO YAMAMOTO, Spillover Effect of Non-core Liability in the Euro Area（海外ジャーナルに投稿中）

(2) 口頭発表（発表者名、テーマ名、学会等名、年月日）

1. 李海峰 (Haifeng Li), Plenary Lecture on the: 7th International Conference on Energy Systems, Environment, Entrepreneurship and Innovation (ICESEEI, 18) held in Cambridge, UK, February 16-18, 2018. "Sustainable Consumption and Life Satisfaction: Evidence from East Asian Countries"
2. (国際招聘講演), 山本周吾, 第92回Western Economic Association International (Sa Diego, CA), Spillover Effect of Non-core Liability in the Euro Area, 2017年6月。

(3) 出版物（著者名、書名、出版物名、年月日、ページ）

1. 中田範夫「公立病院における組織形態・内部環境・マネジメント手法と財務業績・非財務業績との関連性:規模に基づく分析」、中田範夫・城下賢吾責任編集『東アジアの医療福祉制度:持続可能性を探る』、中央経済社、88-100ページ、2018年3月。



2. 城下賢吾・木下真「老後と資金計画」中田範夫・城下賢吾責任編集『東アジアの医療福祉制度：持続可能性を探る』、中央経済社、117-128ページ、2018年3月。
3. 李海峰（編著）『中国の消費社会と消費者行動』（249頁）晃洋書房出版、2017年10月22日。（文部科学省学術振興会の刊行出版費による）。
4. 有村貞則「医療機関における障害のある患者への配慮や支援」中田範夫・城下賢吾責任編集『東アジアの医療福祉制度』中央経済社、第13章（178-192頁）、2018年3月30日発行、
5. 豊嘉哲「季節労働者指令の採択の意味」、嶋田・高屋・棚池編著、『危機の中のEU経済統合』、文眞堂、2018年、第8章。
6. 瀧川和彦「米国反トラスト法におけるハブ・アンド・スポーク型協調行動規制－共謀と累積的競争効果の評価の関係性を中心として－」金井貴嗣、土田和博、東條吉純編『経済法の現代的課題－舟田正之先生古稀祝賀』（有斐閣、2017年）155頁、
7. 萩原浩太・瀧川和彦・堀江明子「フランチャイズ契約における優越的地位の濫用－セブンイレブン事件」岡田洋祐、川濱昇、林秀弥編『独禁法審判決の法と経済学』（東京大学出版会、2017年）267頁。

#### (4) その他

1. 山本周吾 平成29年度大阪銀行協会 フォーラム研究支援特別賞。

---

### ○プロジェクト名

東アジアにおける経済社会の転換

### ○研究組織

研究代表者：植村高久・塚田広人・（浜島清史）

研究分担者：横田尚俊、古賀大介、石龍潭、仲間瑞樹、渡邊幹雄、朝水宗彦、

角田由佳、山本勝也

研究協力者：

### ○研究の概要と結果

昨年度とほぼ同様である。一昨年度まで「東アジア〈格差〉」プロジェクトを行ってきたが、教員の異動・退職等により、プロジェクトに一区切りを付ける必要が生じたため、〈格差〉プロジェクトの成果取りまとめと並行して、新規プロジェクト研究を指向している。こうして「東アジアにおける経済社会の転換」という広範なテーマを掲げて構成員を募り、その中からテーマを絞り込むのが本年度も課題だった。このため、内部でアイデアを出し合い、討論を進めてきており、テーマは絞られつつある。ただし、ここ数年は教員の異動が多く、さらに多くの参加者を募る可能性もあるので、さらなる絞り込みは30年度とし、共同研究できるテーマと国際的連携パートナーの選定、さらに研究計画の確定に進む予定である。

上述のように、教員が大量退職する過渡的時期に当たるため、研究組織として安定的な運営の軌道に載せるために時間を要しているが、もともと過渡期を予測して立てたプロジェクトであるため、外形的な進捗はそもそも期待していないものであった。以上であるが、今年度はテーマを

決めていって共同研究を指向したい。

### ○研究成果の一覧

個別的に様々な研究を進めており、その接点、共有面、共通の問題意識の共有化を進めている。その中で、以下の成果があった。

- ・ Asamizu, Munehiko (2017) “Migration Trends and Social Backgrounds of International Migrant Workers from and to Japan”, 『山口経済学雑誌』 66 (4) 81-103
- ・ 朝水宗彦 (2018) 「地域社会の変遷と持続可能性」 山口大学東アジア研究科編 『東アジアの医療福祉制度—持続可能性を探る』 中央経済社、151-166ページ
- ・ 石龍潭 (2017) 「日本行政訴訟救済範囲之拓展」 行政法学研究2017年第3号113-130頁. 論文
- ・ 石龍潭 (2017) 「土地開発公社との委託契約の履行義務」 行政判例百選 I 2017年第七版192-193頁. 判例評釈
- ・ 石龍潭 (2017) 「情報公開と権利濫用—日本の現実とその対応」 (中国) 吉林大学. 学術講演.
- ・ 塚田広人 (2018) 「市場経済社会の構造・循環図について」 『山口経済学雑誌』 2018年3月号掲載予定.
- ・ 角田由佳 (2018) 「日本における中国人看護師の受入れと雇用の実態」 山口大学大学院東アジア研究科編 『東アジアの医療福祉制度—持続可能性を探る』 中央経済社.
- ・ 浜島清史 (2017) 「アベノミクスの批判的再検討—山口県の経済と雇用も踏まえて—」 稲葉和也編 『山口県における「アベノミクス」施策の経済効果と課題提言の研究』 山口県労協政策委員会.
- ・ 速水聖子・横田尚俊・山下亜紀子 「遠方避難者における当事者間相互支援のネットワーク化—西日本地域の事例を通して」 第4回震災問題研究交流会 (主催: 日本社会学会震災問題情報連絡会震災問題ネットワーク)、2018年3月、於早稲田大学戸山キャンパス (学会発表)

テーマを絞るという作業は上述のように進んでいるが、まだテーマを絞るには至っていない。とはいえ、こうした事態は想定範囲内であり、進捗していない訳ではない。